

I 実践

1 研究主題

豊かな人権感覚や人権意識を醸成する適切な教育活動に努め、学校の教育活動全体を通して人権教育の推進を図る。

(1) 主題設定の理由

本校は、全校児童23名という小規模校である。限られた人的環境の中で児童がより多くの人たちと人間関係を築けるようにするために、地域人材の活用を中心とした「地域重視」の指導に力を入れてきた。そうした試みが互いの良さを認め合い、互いに支え合う温かい人間関係の育成につながってきている。そこで今年度も、体験活動を通して、差別や偏見の心を持たず、他者への思いやりと感謝の心を育て、自らの人権の大切さと同じように他者の人権も大切にしようとする態度を育てたいと考え本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ① 人間は法の下に平等であるという考えに立ち、差別や偏見をなくし、他者を尊重する態度を育成する。
- ② 自分の大切さと共に他人の大切さを認め、様々な場面で具体的な態度や行動で表すことができるようにする。
- ③ 人権教育に関する研修会の積極的な参加、校内研修での伝達を通して、人権教育に対する意識を高め、教員としての資質の向上を図る。

2 実践内容

(1) 豊かな体験活動の展開

① 学校の特色である創作和太鼓演奏

創立100周年の記念行事で誕生した創作和太鼓も今年度で4年目となった。運動会、三世代交流会、地区敬老会、市内音楽会、福祉のつどいなど様々な場面で演奏を披露した。練習や準備は大変であるが、団結することや協力することの大切さを学び自信をつけることができた。

② 地域との交流（運動会・高齢者との会食交流会・地域人材を生かした体験学習）

本校では、児童が地域の方々とふれ合う機会が多く設定されている行事が多い。中でも、地区と共同実施する運動会や地域の高齢者との会食交流会など、地域との連携を深めながら取り組んだ。

ア 運動会

全校児童が23名という小規模校のため、5月の運動会は地域と共催という形式をとっている。児童は様々な種目を通して、地域の方々とふれあい、共に活動する楽しさを味わうことができた。

イ 高齢者との交流

地域の高齢者を学校に招き、交流会を実施している。6月に3・4年生が企画・運営を担当し、音楽の発表や昔遊びを通して高齢者とふれあうことができた。また、12月には近くにある介護施設を訪問し交流を持った。

ウ 地域人材を活かした活動

動物ふれあい教室では里親募集の犬など外部講師から学び、いろいろな学びがあった。



③ 異学年との交流活動

本校では、週に1回(水曜日)ロングの昼休みや東小沢っ子カップで全校での集団遊びで異学年と交流を行っている。高学年が低学年の面倒をよくみながら、仲良く遊んでいる。

④ あいさつ運動や募金活動

地域の方や久慈中学校の代表の生徒が来校し「あいさつ運動」を実施している。計画委員のあいさつ運動では、元氣いっぱいの子童が表彰していた。また、各種募金活動も積極的に取り組んだ。



動物ふれあい教室

(2) 人権に関する啓発活動の充実

① 人権作品展(メッセージ・標語・ポスターなど)への取り組みについて

人権意識を高めるための啓発活動に取り組んでいる。全校児童でメッセージ考え、作品作り行った。

② 人権学習の実施

道徳の時間には、人権に触れながらの授業にも取り組んだ。年間の各教科の指導計画の一覧表から連携を図り様々教科で人権教育につなげるようにした。また、特別支援学校の居住地交流で来校児童と体育の授業を通し交流することができた。自然な形で児童に人権意識が芽生えることにつながった。



地域のあいさつ運動

(3) 人権意識を高めるための職員研修の充実

① 全職員で取り組む校内研修等

校内研修の時間や生徒指導の情報交換の中で、事例研修を行い教職員の人権意識を高めるようにした。

② 年間指導計画の見直し

「人権教育に関わる年間指導計画」を学年ごとに検討している。特に女性・子ども・高齢者・障害者・同和問題・東日本大震災等の人権侵害の見直しを継続して行っている。



特別支援学校の居住地交流

(4) 人権コーナーの設置

本校では「人権コーナー」という名称では設置していないが、道徳的な内容を含んだ「こころのまど」を各教室に設置し、学校行事に関して児童が励んだ事などを写真や児童の感想などを紹介し、人権教育の啓発活動を行っている。また、各教室には、青少年赤十字の誓いの言葉やデュナンの肖像を掲示し意識づけている。



1年生に赤十字バッジ授与

3 成果

- (1) 地域との多くの交流や異学年交流を通して、好き嫌いとらわれずに、誰に対しても公正・公平にふるまい、仲良く生活する態度を育てることができた。
- (2) 創作和太鼓の演奏活動や「あいさつ運動」を通して、自分たちが地域の一員であるという児童の自覚を高めることができた。また、今年度は、休み時間に低学年と高学年が仲良く活動する場面昨年より多く見かけるようになった。高学年児童に低学年児童を思いやる心が育っている。

II 今後の課題

- (1) 学校教育全体を通して、人権に関する学習をよりいっそう充実させ、児童一人一人の人権意識のさらなる高揚を図るための取り組みを計画的・継続的に実践していきたい。
- (2) 児童が地域の一員であるという自覚をさらに高めていく手立てを意図的に展開していきたい。
- (3) 人権意識を高めるための職員研修を計画的・継続的に実施し、人権教育について共通の認識が持てるようにしていきたい。